

築地市場跡地に係る埋蔵文化財試掘調査委託（6 築－2）

業 務 報 告 書

令和 7 年 1 月

東京都第一市街地整備事務所

株 式 会 社 ノ ガ ミ

調 査 概 要

件 名	築地市場跡地に係る埋蔵文化財試掘調査委託（６築－２）
調査地点	東京都中央区築地五丁目地内
調査面積	試掘坑① 282.06 m ² 試掘坑② 74.67 m ² 試掘坑③ 188.91 m ² 試掘坑④ 494.32 m ² （合計：1039.96 m ² ）
調査期間	事前準備 令和 6 年 6 月 26 日 ～ 令和 6 年 7 月 17 日の内、15 日間 現地調査 令和 6 年 7 月 17 日 ～ 令和 7 年 1 月 23 日の内、121 日間（埋め戻し作業を含む。） 整理作業 令和 6 年 11 月 15 日 ～ 令和 7 年 1 月 31 日の内、31 日間
調査機関	株式会社ノガミ 関東支店 現場代理人 : [REDACTED]（令和 6 年 6 月 20 日～10 月 21 日） : [REDACTED]（令和 6 年 10 月 22 日～） 土木技師 : [REDACTED] 主任調査技師 : [REDACTED] 調査技師 : [REDACTED] 庶務 : [REDACTED]
立 会 者	中央区教育委員会総括文化財調査指導員 [REDACTED]
検出遺構	池 1 基、石積 2 基、杭列 1 基、下水遺構（煉瓦組）3 基、下水枡（煉瓦組）1 基
出土遺物	計 382 点（磁器 195 点、陶器 98 点、灰器 7 点、土器 11 点、瓦 10 点、土製品 2 点、ガラス 48 点、自然遺物 1 点、煉瓦 1 点、タイル 5 点、ガイシ 4 点）
調査方法	1. 試掘坑範囲は、中央区教育委員会（以下、区教委という）の事前承認のもと、都市整備局立会いの上で設定した。 2. 試掘坑掘削作業は、区教委の指示のもと、幅 1 m、深さ 1 m の段状掘削を基本に、既存構造物等により適宜変更し重機を用い行った。遺構検出は人力で精査し、遺構調査後、写真及び測量記録を行った。 3. 平面図及び断面図の図化はトータルステーションを使用した。座標及び標高（Tokyo Peil）は市場橋交差点北西の道路上の補助点（3A482）を使用した。また、図中に示した方位は真北を示す。 4. 出土遺物は表土、盛土などの層位種別ごとに取り上げた。 5. 写真記録は 35 mm 一眼レフカメラ（リバーサルフィルム・モノクロフィルム）、デジタル一眼レフカメラを使用した。

調査日誌抄録

試掘発掘調査（試掘坑①～④）

- 7月17日～安全設備工（A型バリケード組立設置）
- 7月25日～現場基地設営（仮設事務所設置、調査用具等搬入）
- 7月25日～アスファルト舗装除去作業
- 7月31日～重機掘削及び遺構検出開始（試掘坑③→④→①→②の順）
- 9月20日～試掘坑①掘削1工程（路盤材等除去）
- 10月2日～試掘坑①掘削2工程
- 10月7日～試掘坑①掘削3工程
- 10月16日～試掘坑①掘削4工程
- 10月16日～試掘坑②掘削1工程（路盤材等除去）
- 10月18日～試掘坑②掘削2工程
- 10月31日～試掘坑②掘削3工程
- 11月13日～試掘坑②掘削4工程
- 7月31日～試掘坑③掘削1工程（路盤材等除去）
- 8月23日～試掘坑③掘削2工程
- 9月9日～試掘坑③掘削3工程
- 10月3日～試掘坑③掘削4工程
- 8月5日～試掘坑④掘削1工程（路盤材等除去）
- 8月22日～試掘坑④掘削2工程
- 9月3日～試掘坑④掘削3工程
- 9月18日～試掘坑④掘削4工程
- 11月28日～重機による埋め戻し作業
- 12月19日～後片付け・場内整備作業
- 1月23日 アスファルト敷設（試掘坑④）
- 1月28日 現場撤去

整理調査

- 11月15日～遺物洗浄作業開始
- 12月16日～図面作成作業開始
- 12月16日～図版作成作業開始
- 12月20日～遺物写真撮影開始
- 1月15日～遺物集計作業

現場視察・指導等

東京都教育庁

- ・9月11日、10月29日

中央区教育委員会

- ・9月11日、9月25日、11月12日、11月27日、12月12日、1月7日

地理的・歴史的環境

旧築地市場は、江戸幕府開設時にはまだ陸地化しておらず、隅田川河口部に広がる湿地であったが、旗本屋敷地の不足解消のため承応3年（1653）より埋立てが開始され、明暦3年（1657）におきた明暦の大火を経て寛文3年（1663）までには埋め立てられた。

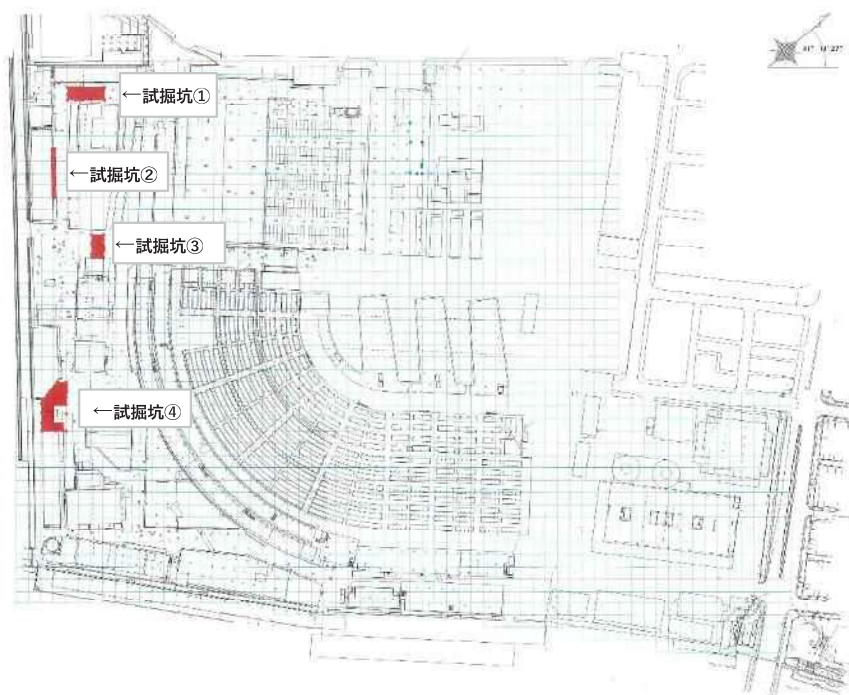
その後、調査対象地を含む築地5丁目は江戸時代を通じて尾張藩蔵屋敷に、築地6丁目は町人地から御米蔵を経て、享保年中（1716～1736）には森川出羽守、有馬内膳、辻新之丞、稲葉若狭守、などの拝領屋敷地となっており、文化5年（1808）になると拝領地が大きく集約され、佐倉藩主堀田相模守の屋敷地となり、文政13年（1830）には紀州藩邸となった。しかし、安政2年（1855）には幕府御用地となっている。⁽¹⁾

尾張藩蔵屋敷は、江戸時代初期には南八丁堀にあったが、明暦の大火のあと「汐留川に接し、水運の便に富んだ大邸地を代地として与えられた。」⁽²⁾ 当邸地は大池が過半を占め、また大きな舟入堀になっており、蔵屋敷として機能していたことが窺い知れる。明治時代を迎えると、新政府から上地するよう命ぜられ、その後、尾張藩蔵屋敷には海軍省が建てられ、明治9年（1876）には海軍省の外郭団体である「水交社」が創設された。

大正12年（1923）9月1日の関東大震災により被災すると、日本橋にあった魚河岸と京橋にあった大根河岸が海軍省から築地の用地を一部借り受け、一時的に公設市場が開設され営業を続けた。震災後、昭和10年（1935）には中央卸売市場となり、第2次世界大戦後はアメリカ合衆国に接収されたが、市場は平成30年（2018）に豊洲に移転するまで続いた。当調査区は、近代の海軍省軍用地の南西部にあたり、大池や隅田川の護岸施設が検出された。

(1) 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター 2021『東京都埋蔵文化財センター調査報告362：中央区築地市場跡遺跡』（公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター）

(2) 『郷土室だより』第8号1975（東京都中央区）



1図 試掘坑①～④位置図（1）



2図 試掘坑①～④位置図（2）（『水路部沿革史』震災以前頃の海軍省空中写真(国土地理院)に加筆した合成図)



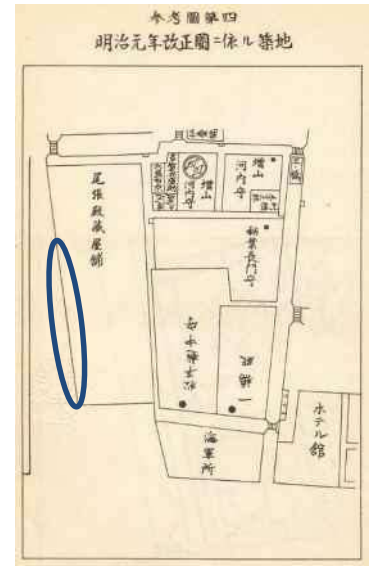
3図 試掘坑①～④位置図（3）（『水路部沿革史』明治10年（1877）の海軍省敷地図（国立国会図書館）に加筆した合成図）



嘉永年間 (1848~1854年)



文久年間 (1861~1864年)



明治元年 (1868年)



明治10年 (1877年)



明治17年 (1884年)

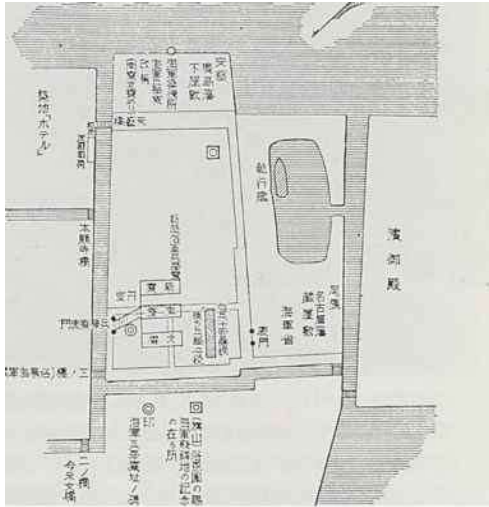


明治45年 (1912年)

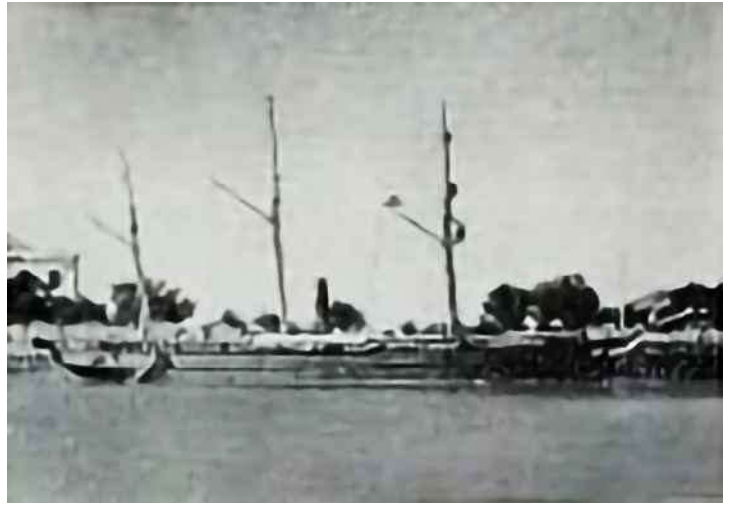


大正14年 (1925年)

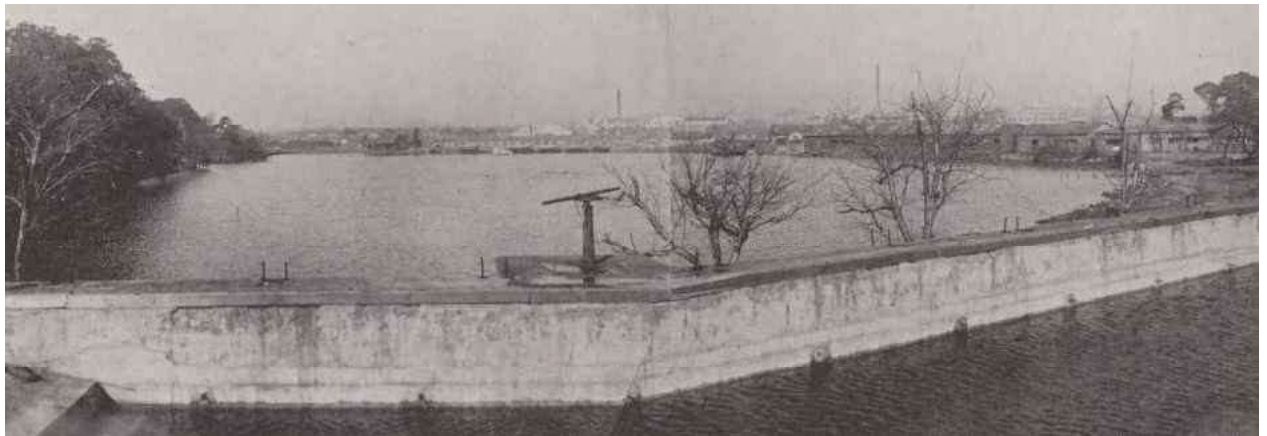
4 図 試掘坑①～④の近世から近代の変遷図『水路部参考図』（国立国会図書館蔵）に青丸を加筆した合成図



5 図『海軍兵学校・海軍機関学校・海軍経理学校』秋元書房1984年(国立国会図書館蔵)「大池」に停留している練習船「乾行艦」が記されている。



6 図『海軍兵学校・海軍機関学校・海軍経理学校』秋元書房1984年(国立国会図書館蔵)「大池」と練習船「乾行艦」を南西方向から撮影したもの。



7 図『東京市中央卸売市場築地本場・建設図集』「全景図(工事着手前)」昭和9年(1934)(国立国会図書館)

調 査 成 果

試掘坑①・③・④北区は、段掘り掘削による方法で試掘調査を行ったが、四方がコンクリートの地中梁で覆われた試掘坑④南区と、三方がコンクリートに囲われた試掘坑②については壁面崩落の恐れがないと判断し段掘り掘削を行わなかった。

1 段目の試掘調査は最大 1.0m の深度まで掘削し、いずれの調査坑からもコンクリートガラや埋設管が混入した土層を確認した。これらのガラは旧築地市場の建物跡やインフラ関係の埋設管等である。こうしたガラを含む昭和時代の整地層に多数の埋設管敷設時の攪乱が確認される状況であった。試掘坑①では 2 基の下水遺構（煉瓦組）と 1 基の下水枡（煉瓦組）が、試掘坑③からは 1 基の下水遺構（煉瓦組）が確認された。

段掘り掘削 2 段目の試掘調査は、最大深度約 1.5～2.0m まで掘削し、試掘坑③では下水遺構（煉瓦組）の基部が確認された。

段掘り掘削 3 段目の試掘調査は、最大深度約 3.0m まで掘削し、試掘坑①では大池の護岸と推定される「石積 1」が確認された。

一方、段掘り掘削を行わなかった試掘坑②では最大深度 2 m まで掘削し、14 本からなる杭列 1 基を検出した。また、試掘坑④の南区では、深度 60 cm まで掘削し「石積 2」を確認した。

試掘坑①

調査面積 282.06 m² (1 工程：282.06 m²、2 工程：201.09 m²、3 工程：108.16 m²、4 工程：32.12 m²)

検出遺構 計 5 基（池 1 基、石積 1 基、下水遺構（煉瓦組） 2 基、下水枡（煉瓦組） 1 基）

出土遺物 点数 73 点、重量 1.3 kg（磁器 36 点、陶器 18 点、土製品 1 点、ガラス 13 点、自然遺物 1 点、タイ
ル 1 点、ガイシ 3 点）

調査目的 試掘坑①を設定した B20-1・B20-4・B20-7 グリッドは、大池北部の西岸に想定される区域（2・3 図参照）であり、その護岸の位置を特定することを目的として試掘調査を行った。

調査所見 段掘り調査の 1 段目は、B20-4 グリッドの地表面で下水遺構（煉瓦組） 1、地表面直下に近い TP＝約 2.5m で下水枡（煉瓦組） 1、さらに B20-7 グリッドの地表面で下水遺構（煉瓦組） 2 が確認された。これらは近代の構造物で、下水枡（煉瓦組） 1 は築地市場整備に伴い廃されたと考えられるが、下水遺構（煉瓦組） 1・2 については人孔として現代まで使用されていたようである。

段掘り調査 1 段目の出土遺物は、18 世紀中葉～後葉に比定される広東碗の磁器のほか、18 世紀前葉～19 世紀中葉頃に比定される肥前系の陶磁器、明治～大正期に比定される磁器が認められる。他には、タイル、色ガラス、ガラス瓶、ガイシ等などが出土した。

段掘り調査の 2 段目は、最大深度約 2.0m まで掘削し、昭和の盛土層と近代の盛土層の境を確認した。

段掘り調査 2 段目からの出土遺物は、18 世紀前葉～中葉頃までに比定される肥前系の大碗、徳利や 18 世紀前葉～19 世紀中葉頃までに比定される釘書きのある徳利、土製品のミニチュアのほか、明治～大正期の「磯」字が残る磁器皿、ガイシ、現代に下るガラス瓶などがあり、さらに自然遺物としてバイガイが出土した。

段掘り調査の 3 段目では、B20-7 グリッドを TP＝約 1.3m まで掘削し、石積 1 を確認した。この石積は大池の護岸に想定されるものである。

段掘り調査 3 段目からの出土遺物は、18 世紀前葉頃に比定されるもので、磁器には肥前系の五寸皿や平皿、陶器には、肥前系の平碗、瀬戸・美濃産の柿釉が施釉された丸碗があり、徳利底部に墨書がみられるものもある。

(1) 「石積 1」(B20-7 グリッド)

本遺構は、B20-7 グリッドの中央北寄りに位置し、北西から南東方向に切石 5 体が並ぶ。本遺構は

基本土層第3層で確認され、TP＝約1.3mであった。また、切石前面にサブトレンチを設置した結果、石積は最低でも3段（3段目の上面がTP＝－1m）遺存することが確認された。確認できる切石のツラの規模は、66×78cmと84×100cmの2規格に分類され、いずれも安山岩系石材が使用されていた。そして、サブトレンチ内の下段2体の切石は観察出来る範囲で推定すると84×100cmに近い規模と想定される。上段の北西側に位置する4体はいずれも上面に新しい剥離が認められた。恐らくは本遺構の直上に埋設されていたヒューム管の設置時に邪魔な部分を削られたのではないと思われる。南東の切石は平面66+ α ×84cmを測り、本遺構で最大規模の切石である。その上面には6つの矢穴が長軸に沿って並ぶように認められた。矢穴は平面長方形で幅3.7～4.0cm、長軸は上端5.3～6.0cm、下端2.5～2.9cm、断面は逆三角形で深さ5.0～6.0cmを測る。

本遺構は、土層観察の結果、石積1の切石を挟んだ両側が異なる層であり、基本土層第4・5層は黒色と暗オリーブ灰色の粘質土が縞状に堆積しており、上から土砂が流れ込んだ状態で検出された。埋設管敷設時の攪乱によりやや分かりにくい、土層の切石上部あたりから第4・5層が池に向かって下っていく様子が観察された。こうした土層の状況と大池の想定位置から、本遺構は大池北部の西側護岸と推定した。

なお、切石前面のサブトレンチはバックホウが届く限界のTP＝－1mまで掘削したが、池底は確認出来なかった。

(2)「池1」(B20-1・B20-4・B20-7グリッド)

上述の石積1は、『水路部沿革史』明治10年(1877)の海軍省敷地図等の絵図から、大池の南西護岸とみられる。上述したように土層観察で石積1の切石を挟んだ両側が異なる堆積状況を示していた。

切石の池側(北東側)では、第4・5層が切石上部から池に向かい流れ込むような傾斜で縞状に堆積していた。一方の池の外側(南西側)では第6・7層が水平に近い堆積を示しており、傾斜等は確認されなかった。また、上述したようにサブトレンチでの土層観察では、近世に比定される土層は確認出来なかった。

池側の出土遺物については、出土遺物集計表でB20-4グリッドとなっている遺物が相当するものとなる。段掘り調査1段目・2段目の出土遺物は、ともに18世紀前葉～19世紀中葉頃に比定される肥前系の陶磁器類や明治～大正期に比定される磁器、ガイン、ガラス等である。段掘り調査3段目からは、18世紀前葉の肥前系陶磁器等が出土したが、本池の性格や共伴遺物の年代からは、大正期以降に埋め立てられた遺構と考えられる。

(3)「下水遺構(煉瓦組)1」(B20-4グリッド)

本遺構は、B20-4グリッドの中央北寄りに位置する所謂「人孔」である。本遺構が確認されたのはほぼ地表面と同一のTP＝約2.8mで、遺構の基部は第4層に位置し、TP＝約0.3mであった。平面形は円形で外径約120cm、立面はほぼ円筒形で高さ243cmを測り、上面には径67cmの鉄製蓋が据えられていた。

壁体は、煉瓦小口を外面に向ける小口積みで、隣り合った煉瓦が5cm前後の隙間を空け桁状に積まれていた。また、基礎部と蓋周りはコンクリートで形成され、煉瓦の隙間にはモルタルが充填されていた。

構築時期は、本遺構の上部が昭和期の整地層と考えられる第1層に相当することから、昭和期と考えられる。

(4)「下水遺構(煉瓦組)2」(B20-7グリッド)

本遺構は、B20-7グリッドの中央付近に位置する人孔である。本遺構が確認された位置はほぼ地表面と同一のTP＝約2.8mで、遺構の基部は第4層に位置し、TP＝約0.6mであった。平面形は円形で、外径約140cm、立面はほぼ円筒形で、高さ223cm(基部が未確認のため現状の高さ)を測る。遺

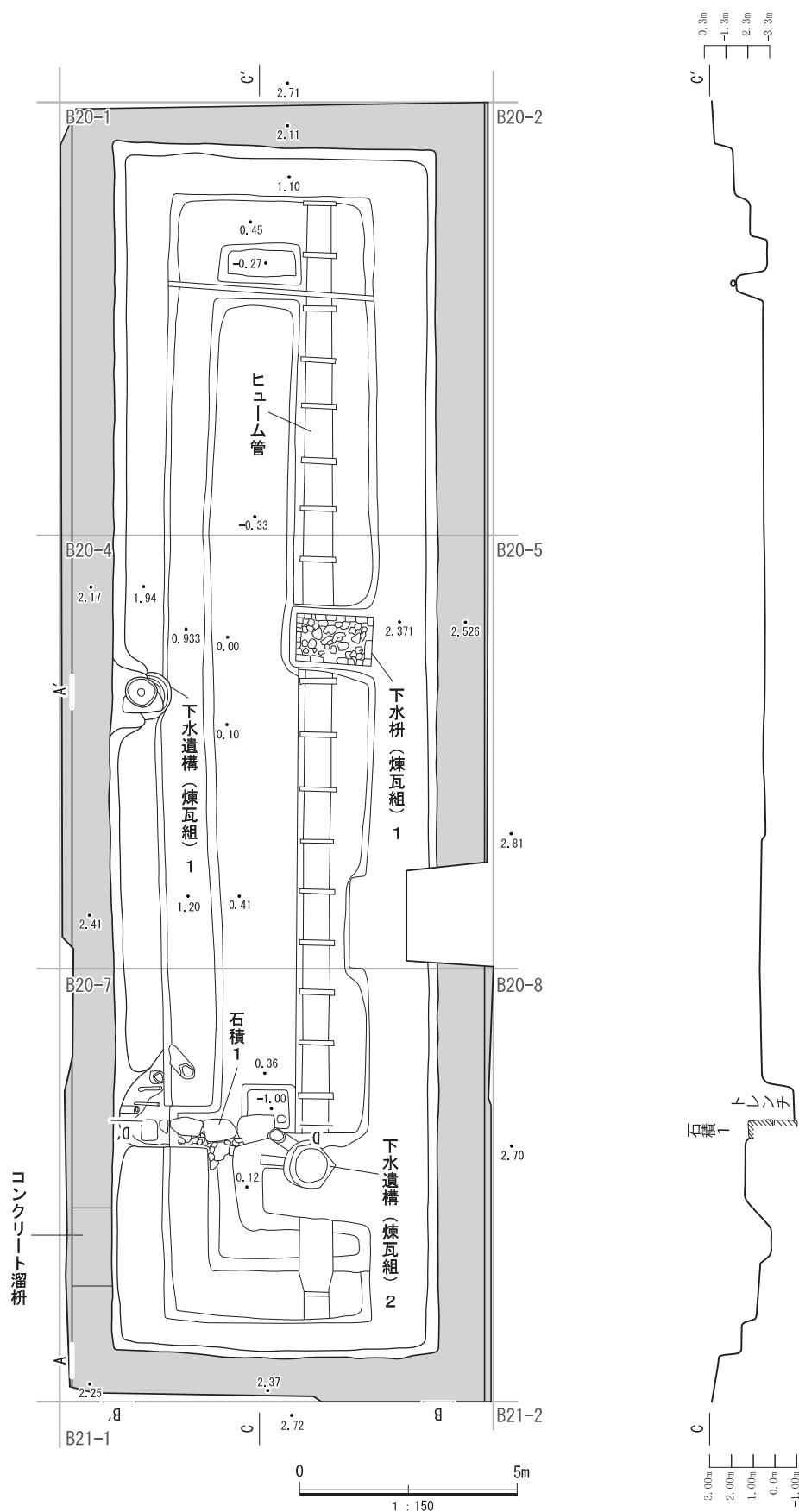
構の上面には径 85 cm の鉄製蓋が据えられており、数箇所のガス抜き孔が確認された。本遺構は、下水遺構（煉瓦組）1 と同様に煉瓦小口を外面向ける小口積みで、隣り合った煉瓦が 5 cm 前後の隙間を空け、桁状に積まれていた。蓋周りはコンクリートで形成され、煉瓦の隙間にはモルタルが充填されていた。遺構の下部に 2 本の直径 30 cm ほどのヒューム管が確認できるが、煉瓦組を壊して挿入されている様子から当初からある施設ではなく、元々の土管を取り外して大きなヒューム管に換えたものとみられる。

構築時期は下水遺構（煉瓦組）1 と同様に本遺構の上部が昭和期の整地層と考えられる 1 層に相当することから、昭和期と考えられる。

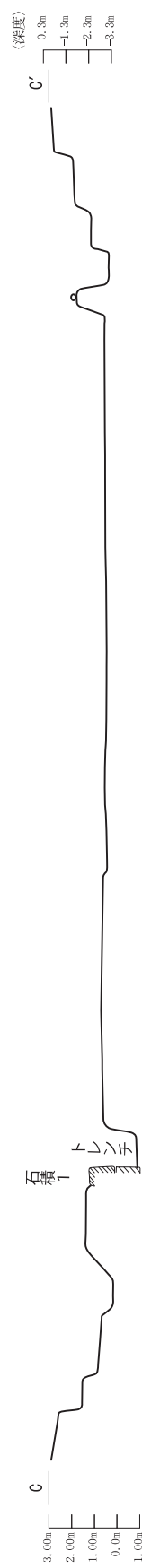
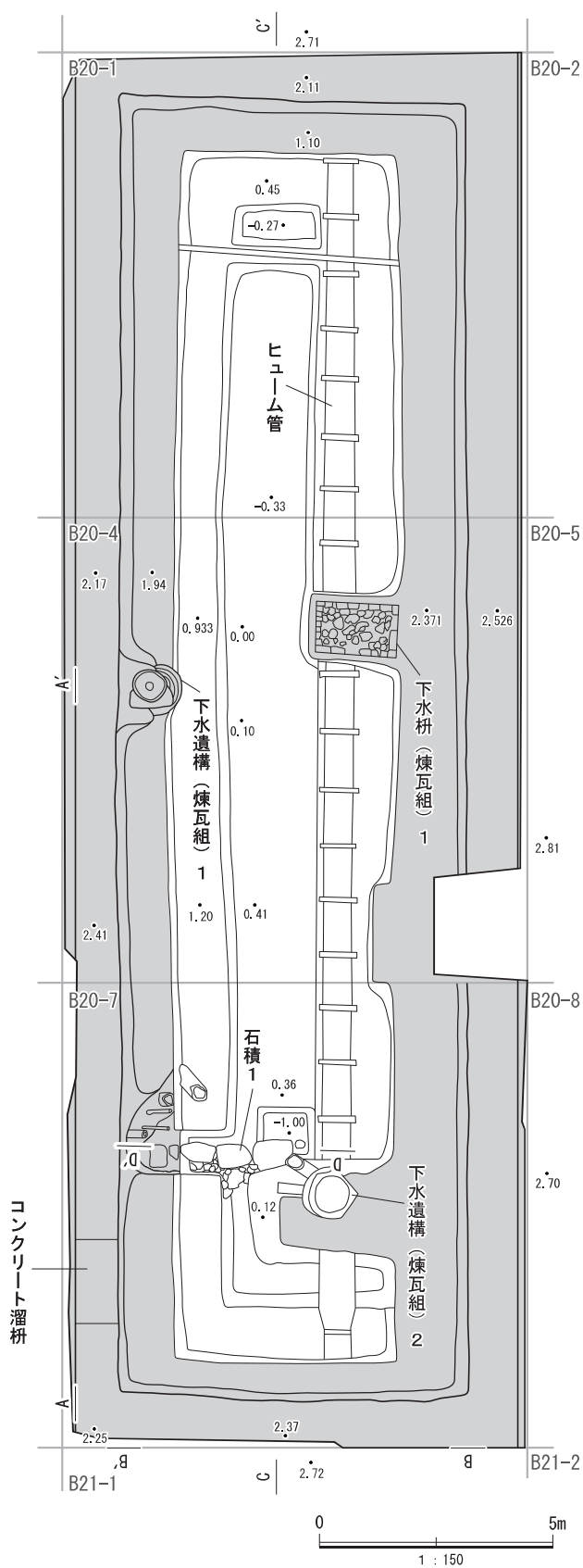
（５）「下水枡（煉瓦組）１」（B20-4 グリッド）

本遺構は、B20-4 グリッドの北東部に位置する。本遺構が確認された位置は路盤の直下で、TP＝約 2.5m であった。基部は TP＝1.9m で第 1 層に相当する。平面は長方形で、外形の規模は 125×190 cm、高さは 50 cm を測り、煉瓦は長手積みである。枡の下部に基礎等は確認出来なかった。枡の内部はコンクリートガラと煉瓦片で埋まっており、このほかの遺物は確認されなかった。

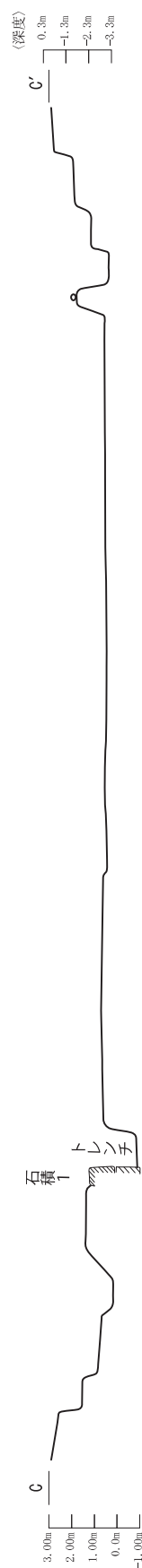
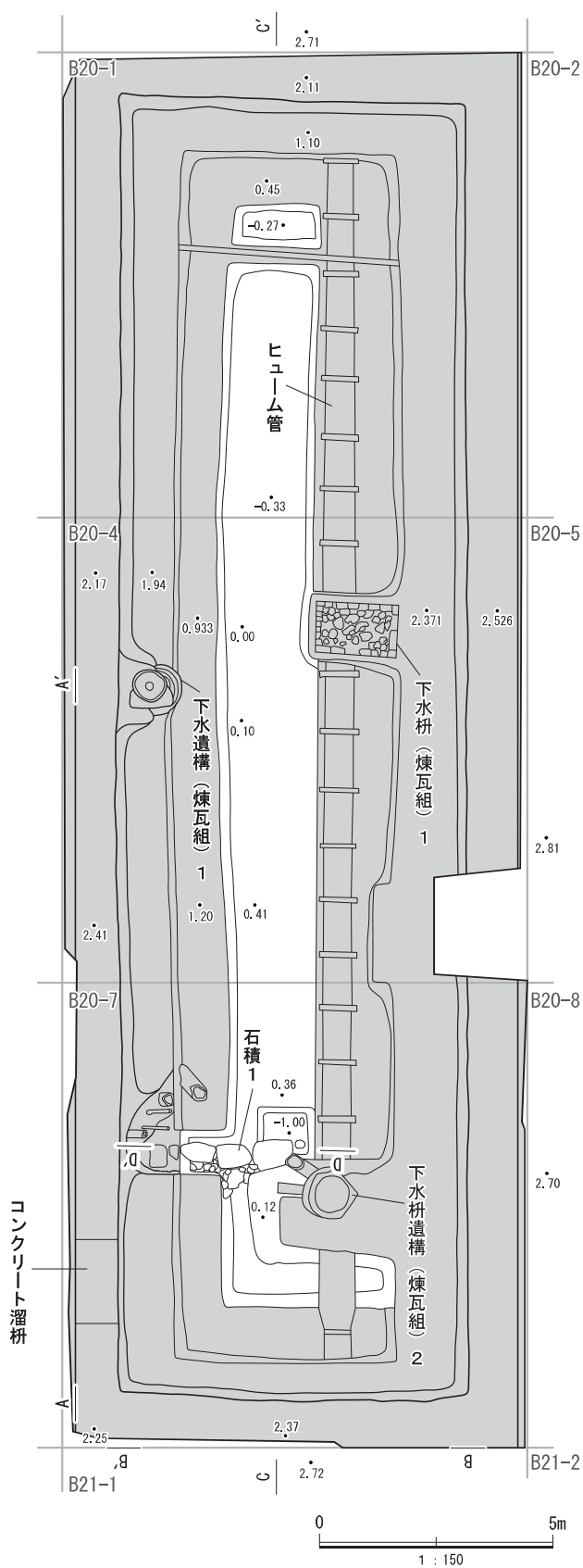
構築時期は、下水遺構（煉瓦組）1・2 と同様に本遺構の上部が昭和期の整地層と考えられる第 1 層に相当することから昭和期と考えられる。



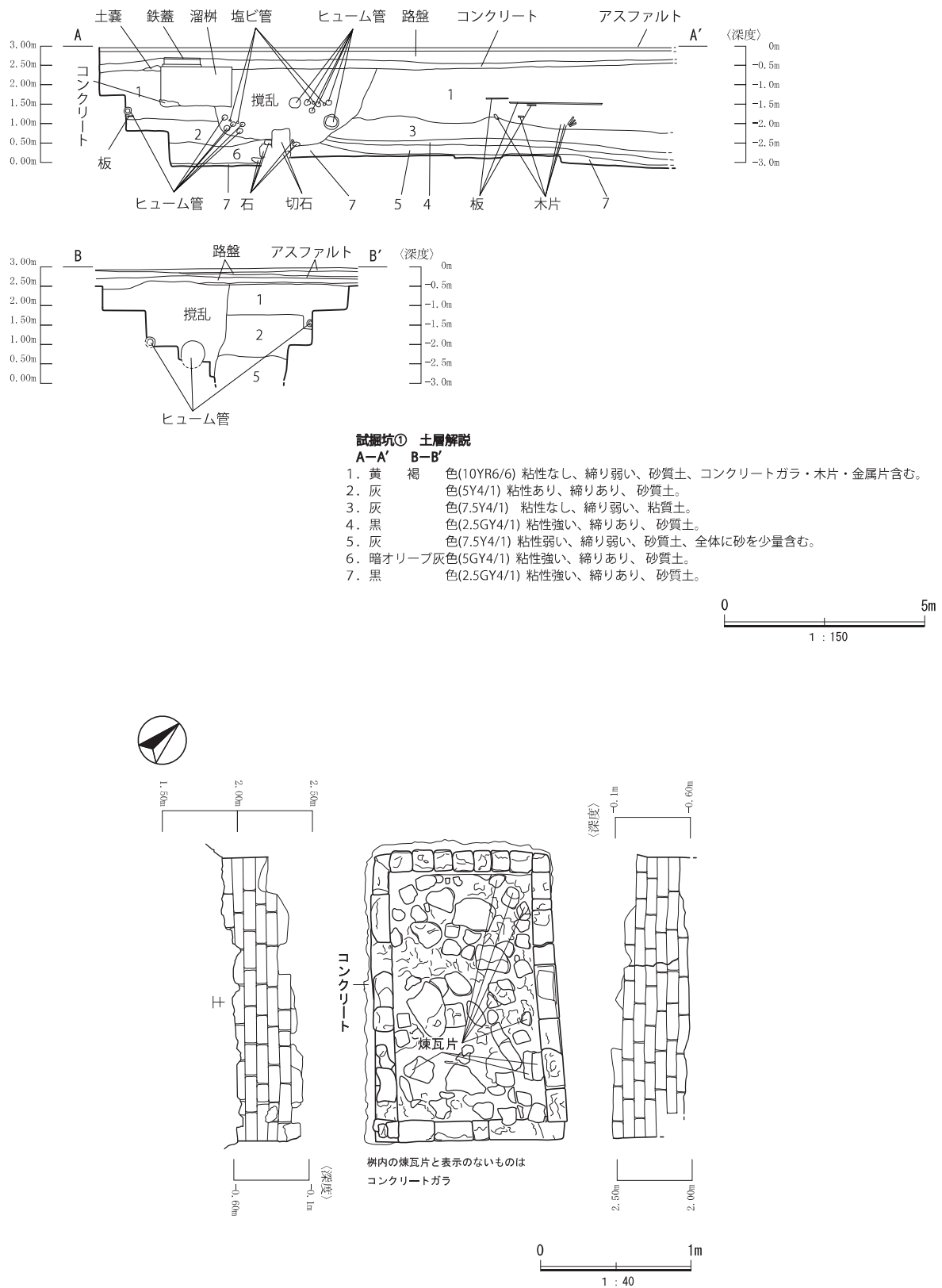
8 図 試掘坑①全体図 (1) 上層



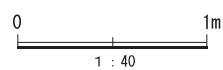
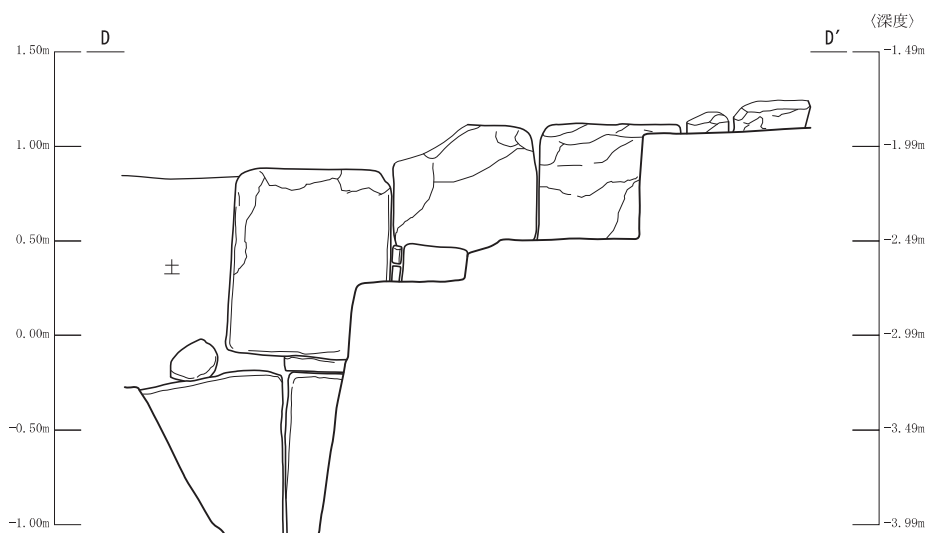
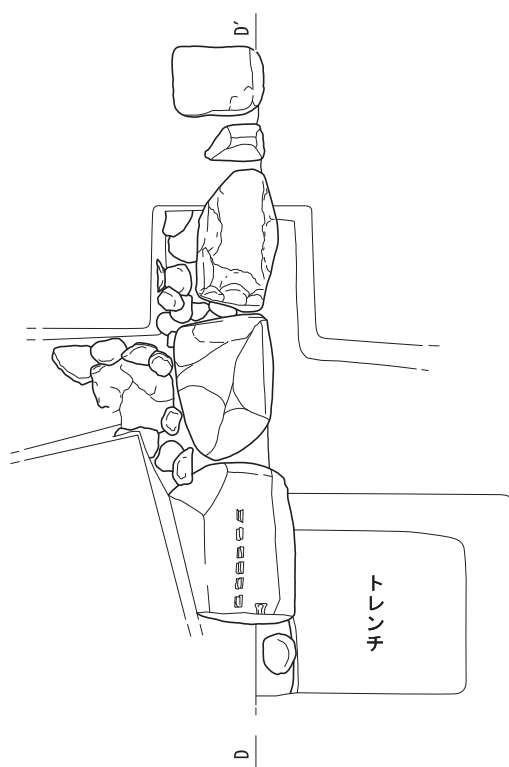
9 図 試掘坑①全体図 (2) 中層



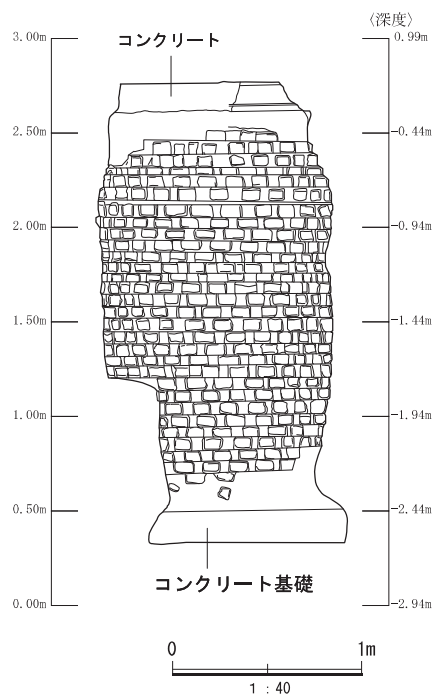
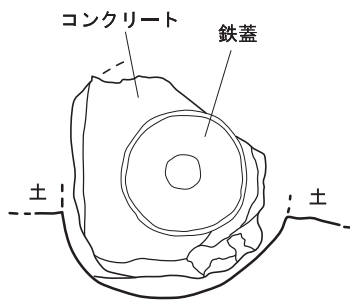
10 図 試掘坑①全体図 (3) 下層



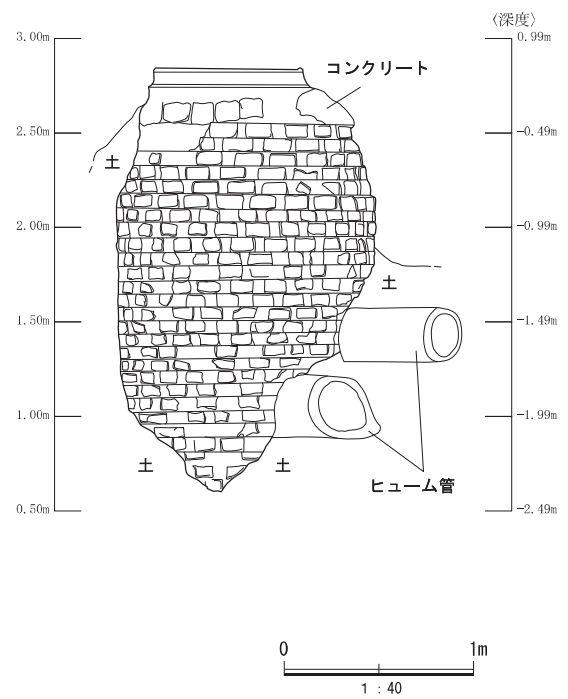
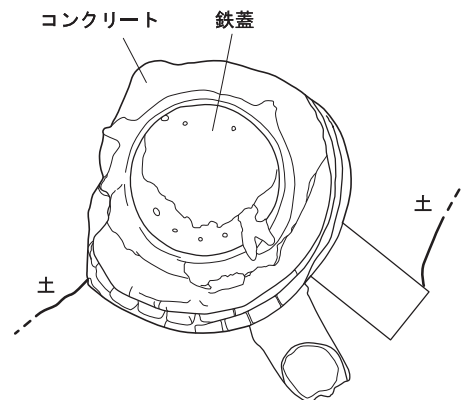
11 図 試掘坑①土層図・下水枡 1 詳細図



12 図 試掘坑①石積 1 詳細図



下水遺構（煉瓦組） 1



下水遺構（煉瓦組） 2

13 図 試掘坑①下水遺構（煉瓦組） 1・2 詳細図

試掘坑②

調査面積 74.67 m²(1 工程 : 74.67 m²、2 工程 : 37.65 m²、3 工程 : 35.57 m²)

検出遺構 杭列 1 基

出土遺物 点数 130 点、重量 4.8 kg (磁器 68 点、陶器 37 点、炆器 3 点、土器 5 点、瓦 8 点、ガラス 5 点、タイル 3 点、ガイシ 1 点)

調査目的 試掘坑②を設定した C21-6・D21-4・D21-5・D21-6 グリッドは、大池西岸の舟入り付近(2・3 図参照)に想定される区域であり、その護岸の位置を特定することを目的として試掘調査を行った。

調査所見 試掘坑②は、D21-4・D21-5 グリッド、最大深度 2 m まで掘削し、TP=約 1.0m で 14 本からなる 1 基の杭列を検出した。なお、本遺構の一部では土留状の板材が伴っていた。

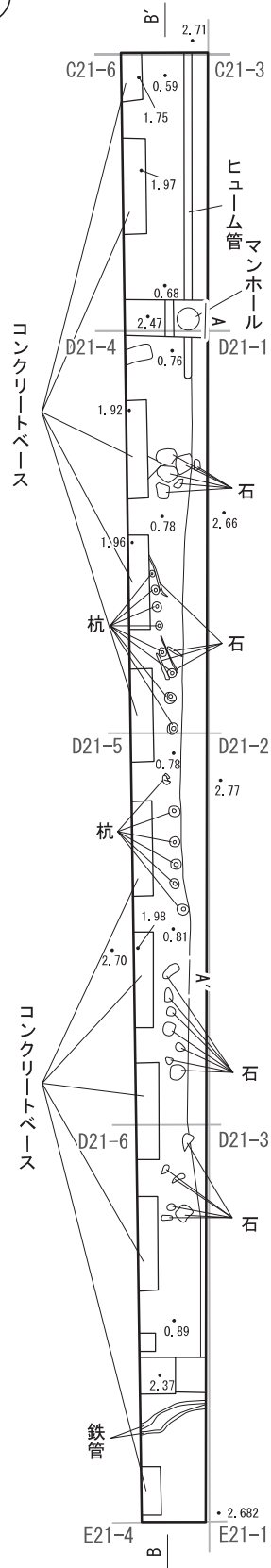
上層からは、18 世紀前葉～19 世紀中葉頃までの遺物が出土した。瀬戸・美濃系の磁器端反碗、炆器の徳利や土瓶、備前の急須、磁器中皿の底部を打ち欠いたメンコに似た転用品、近代のガイシ、ガラス製ワインボトル等があり、また現代の遺物として針金入りの板ガラスが出土している。なお、近世・近代ともに被熱した遺物が散見された。

中層からは、同じく 18 世紀前葉～19 世紀中葉頃までの遺物が出土した。瀬戸・美濃系磁器の小鉢、磁器片を打ち欠いた転用品、陶器では柿釉、瀬戸・美濃産の中甕・水注、笠原鉢、徳利、尿瓶、土器には植木鉢があり、摩滅が観察される。瓦類は軒平瓦片、江戸在地系の平瓦片や、明治時代初頭～大正時代の磁器の段重、信楽焼のカンテラの蓋、炆器常滑の便槽、刻印を持つ鉢、ガラスの酒瓶・薬瓶・クリーム瓶がある。なお、近世・近代ともに遺物には被熱痕が観察された。

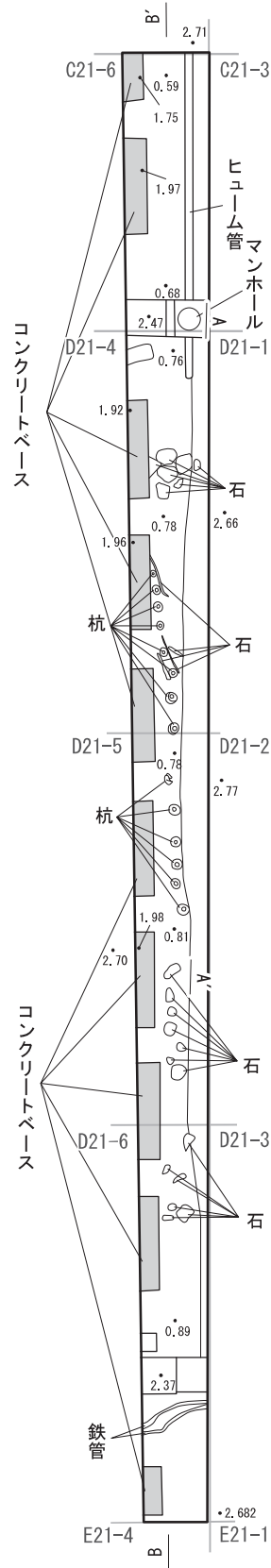
下層から遺物は出土しなかった。

(1)「杭列 1」(D21-4・D21-5 グリッド)

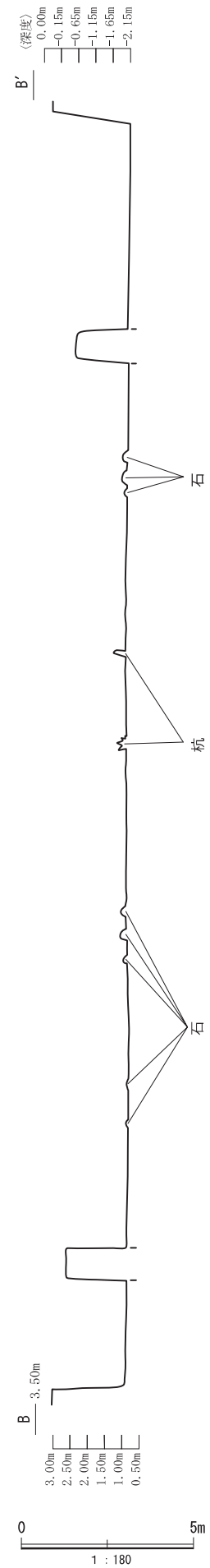
本遺構は、D21-4・D21-5 グリッドの北東側に位置し、調査坑とほぼ平行する北西-南東方向に並ぶ。北西端は建物のコンクリートベースに突き当たる先で立ち消え、南東端は調査坑の中程で、緩やかに曲がって立ち消えるため、さらに延びていたことが想定される。杭は、上面が TP=0.94～1.16 m、検出面から最大 40 cm までの深さが確認できた。杭の直径は 15～20 cm で、その大半は直径 17～18 cm のものである。検出した杭のうち上部が損なわれず保存状況のよい 7 本には、上面に直径 4 cm 前後・深さ 5～9 cm の円形の穴があげられていた。また、本遺構の北西端の 2 本の杭の北側に沿って延べの長さ 94 cm、高さ 14 cm の土留状の板材が添えられるように検出された。さらに、北西端から数えて 5 本目と 6 本目の杭に沿って北側に延べの長さ 102 cm、高さ 6 cm の土留状の板材が添えられるように検出され、南側では延べの長さ 76 cm、幅 9 cm の板が倒れた状態で検出された。今回の試掘調査では、杭の上部 40 cm までしか確認しておらず、下の部分は未掘である。よって、杭の下端まで検出すれば他の箇所にも土留状の板材が検出される可能性もある。また、本遺構は東京都市計画道路環状 2 号線(築地)整備等事業に伴って調査が行われた『築地市場跡遺跡』(2021 年報告)で確認された近代舟入の土留板柵と類似しており、試掘坑②が大池の舟入に想定される位置にあることから、近代舟入の土留板柵の可能性が考えられる。



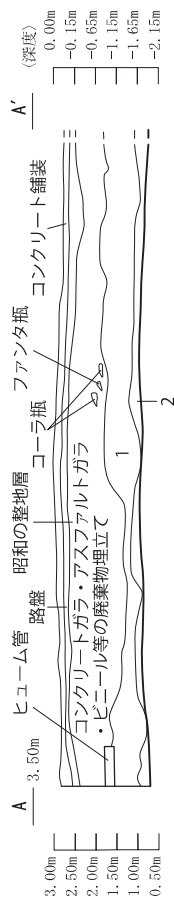
TP=1.97m まで掘削



TP=0.80m まで掘削



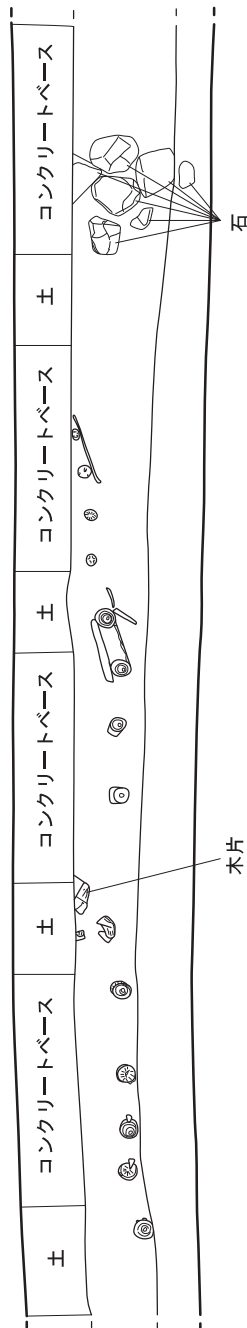
14 図 試掘坑②全体図



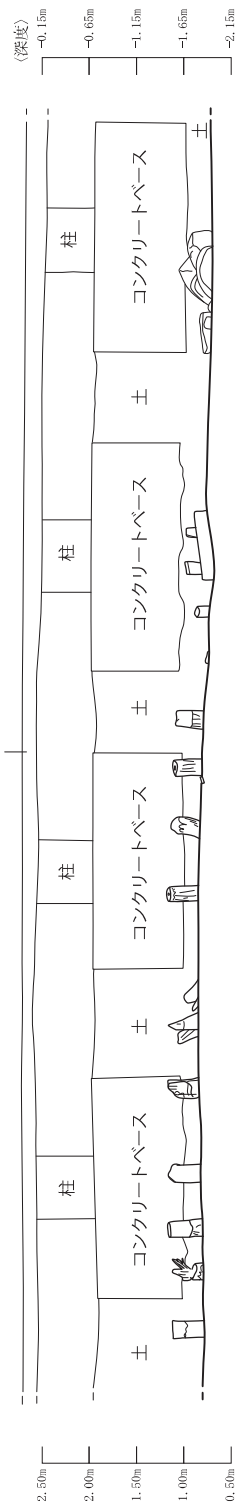
試掘坑② 土層解説

A-A'

1. 明黄褐色(10YR6/6)粘性なし、締り弱い、砂質土、1~30cmの層が30%、少量の煉瓦が混じる。
2. 黒色(SY2/1)粘性なし、締り弱い、砂質土、全体に貝殻が少量混じる。



コンクリート舗装



15 図 試掘坑②土層図・杭列1詳細図

試掘坑③

調査面積 188.91 m² (1 工程：188.91 m²、2 工程：151.34 m²、3 工程：90.00 m²、4 工程：30.09 m²)

検出遺構 下水遺構（煉瓦組）1 基

出土遺物 点数 89 点、重量 1.7 kg（磁器 42 点、陶器 18 点、炆器 1 点、土製品 1 点、ガラス 27 点）

調査目的 試掘坑③を設定した F20-1・F20-2 グリッドは、旧海軍大池の西岸付近（2・3 図参照）に想定される区域であり、その護岸の位置を特定することを目的として試掘調査を行った。

調査所見 段掘り調査の 1 段目は、F20-2 グリッド、TP＝約 2.7m で下水遺構（煉瓦組）3 が検出された。下水遺構（煉瓦組）3 は、試掘調査時に雨が降ると連結されているヒューム管から雨水が流れ込み、毎回水が溢れ出していた。このことから下水枡としての機能が残っているようであった。また、調査坑を北東から南西方向に横切る複数の埋設管が検出された。

段掘り調査 1 段目の出土遺物は、18 世紀前葉～後葉頃の陶磁器類、明治～大正期の器械栓、針金入りの板ガラスである。

段掘り調査の 2 段目は、F20-2 グリッド、TP＝0.75 cm で、下水遺構（煉瓦組）3 の基部を確認した。

段掘り調査 2 段目の出土遺物は、18 世紀前葉～19 世紀中葉の陶磁器類があり、上質な八角形の磁器小鉢や磁器のくらわんか皿、五寸皿、土製品のミニチュア、そして明治～大正期にかけての平碗、備前産炆器の急須、底部に墨書のある徳利、土瓶等があり、羽釜と植木鉢もみられる。

段掘り調査の 3 段目は、F20-1・F20-2 グリッドをそれぞれ最大深度 2.7m まで掘削したが、遺構等は確認されなかった。人力での精査を終了後、F20-2 グリッドにおいて、バックホウを用いて TP＝－1.5m まで掘削し、近世に比定される黒褐色土を確認した。以上の状況等から、試掘坑③は大池の中に含まれる地点と考えられる。

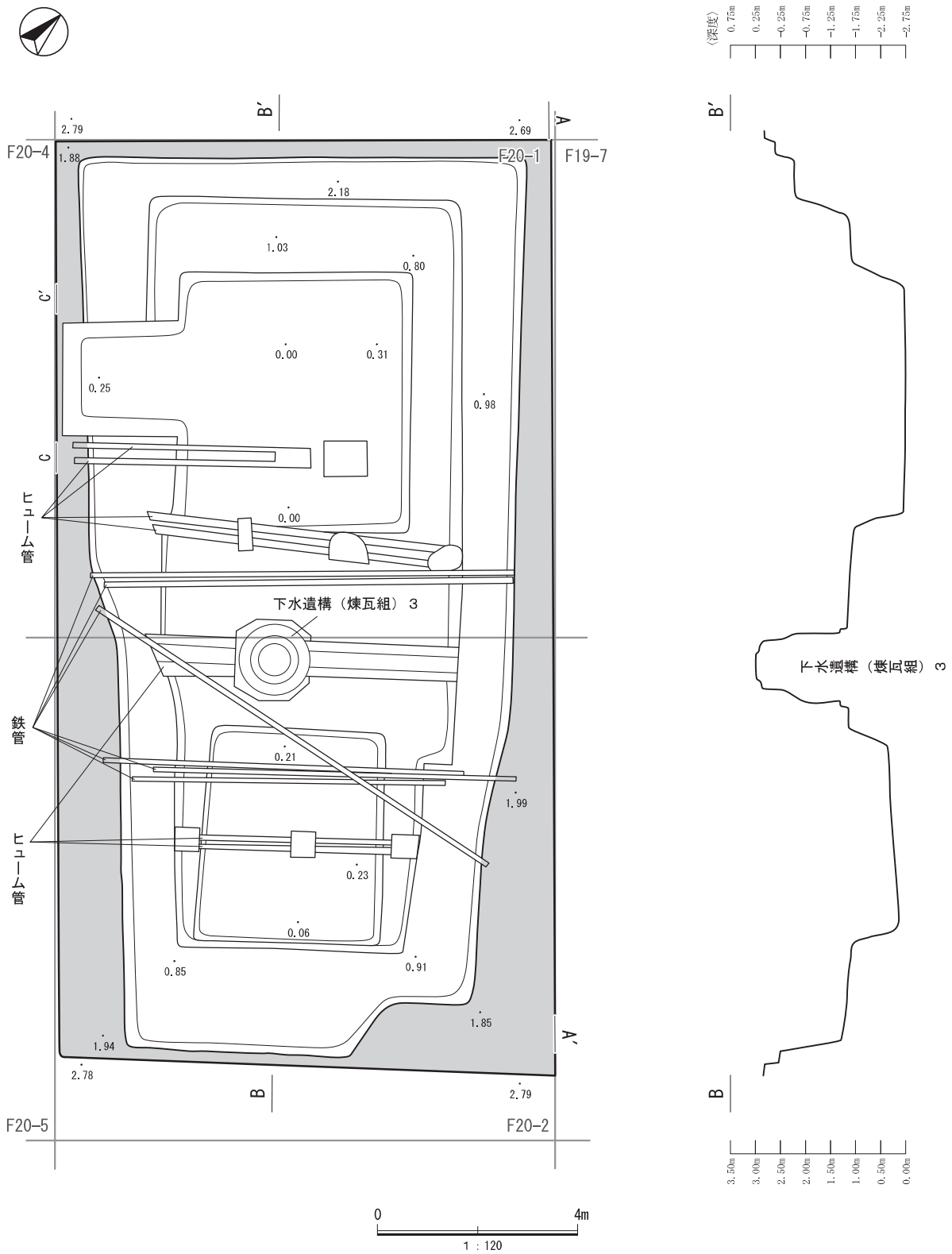
段掘り調査 3 段目の出土遺物は、明治～大正期にかけての磁器があり被熱がみられる。

なお、上記のバックホウで掘削して確認した黒褐色土層から遺物は出土しなかった。

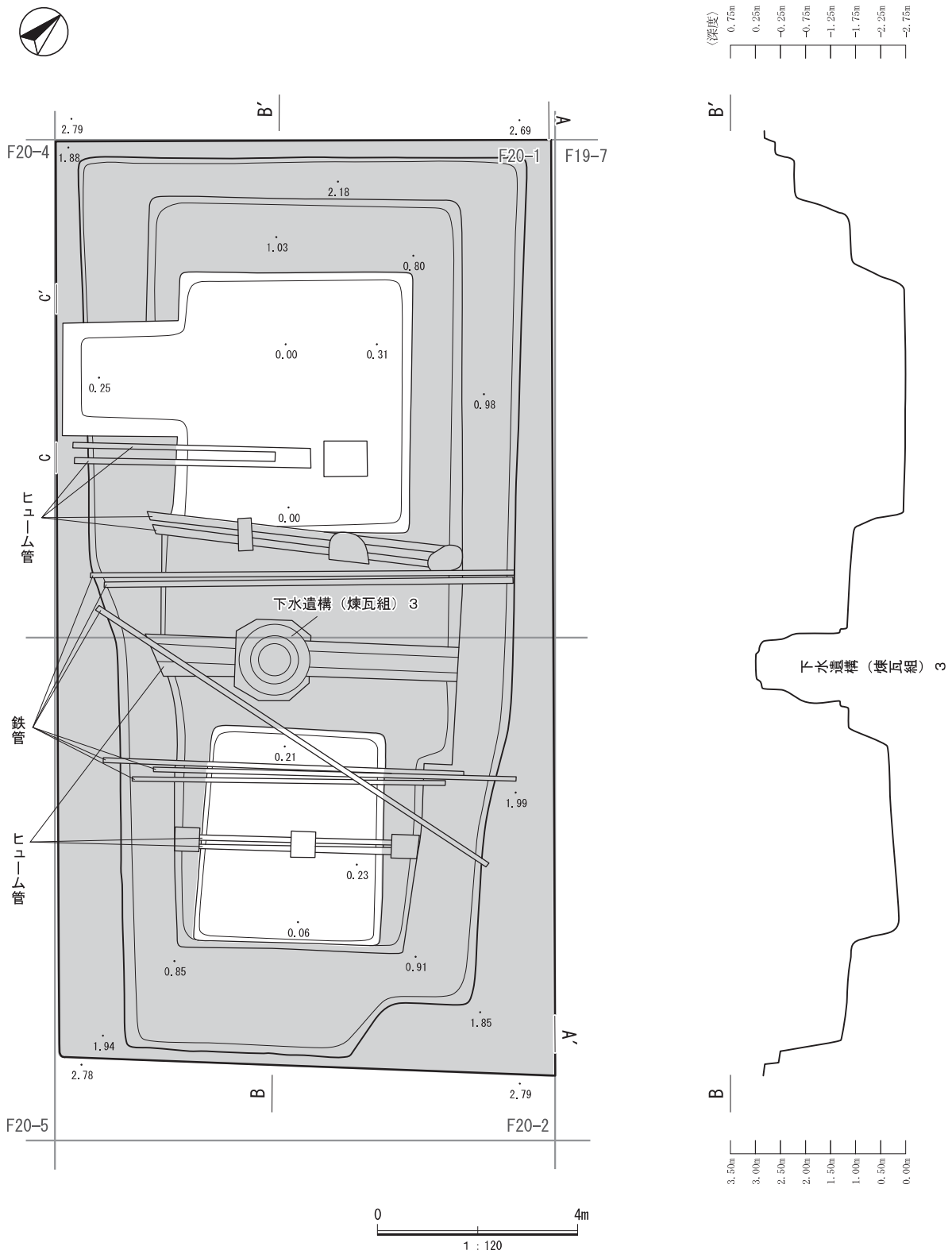
(1) 「下水遺構（煉瓦組）3」（F20-1・F20-2 グリッド）

本遺構は、F20-2 グリッドの北西と F20-1 の南東部にまたがって位置する人孔である。本遺構はほぼ地表面と同一の TP＝約 2.8m で検出された。遺構の基部の標高は、段掘り調査 2 段目の TP＝0.75 cm であった。基部は直径 160 cm・高さ 20～23 cm で、1 辺 60～70 cm の八角形のコンクリートベースで出来ていた。平面形は円形で、外径約 140 cm、立面はほぼ円筒形で、高さはベースの部分を除き 177 cm（ベースを含めると約 200 cm）を測る。上面には直径 74 cm の鉄製蓋が据えられており、2 箇所のガス抜き孔が確認された。

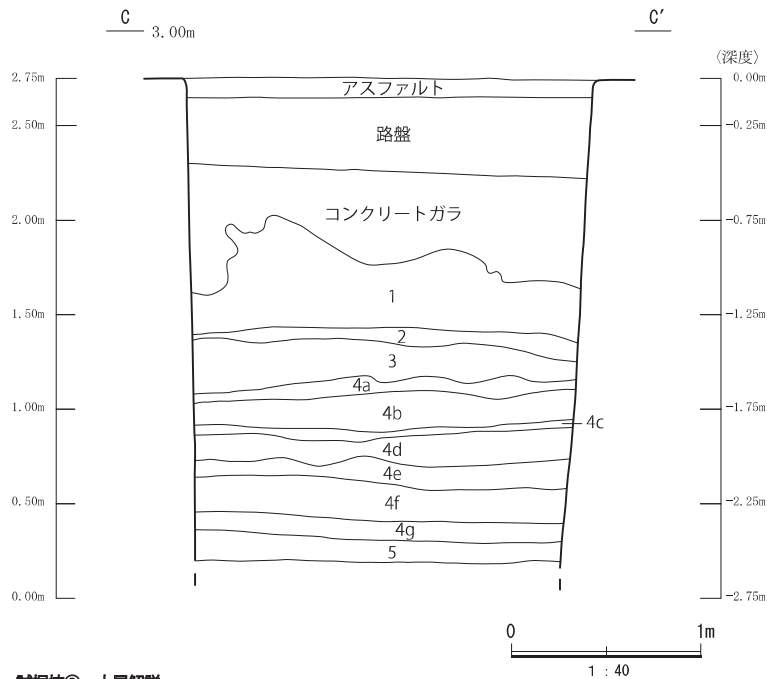
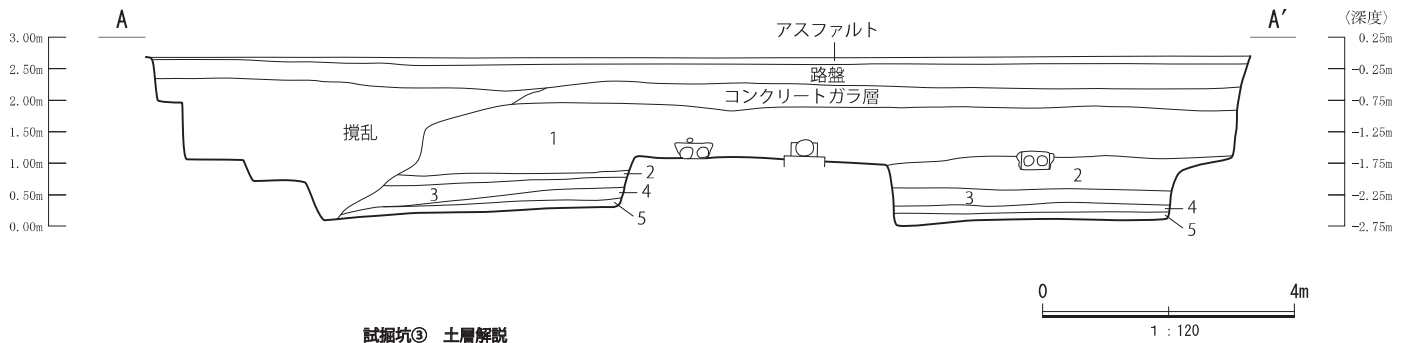
構築時期は、本遺構の上部が昭和期の整地層と考えられる第 1 層を削平した路盤層に相当することから、昭和期と考えられる。



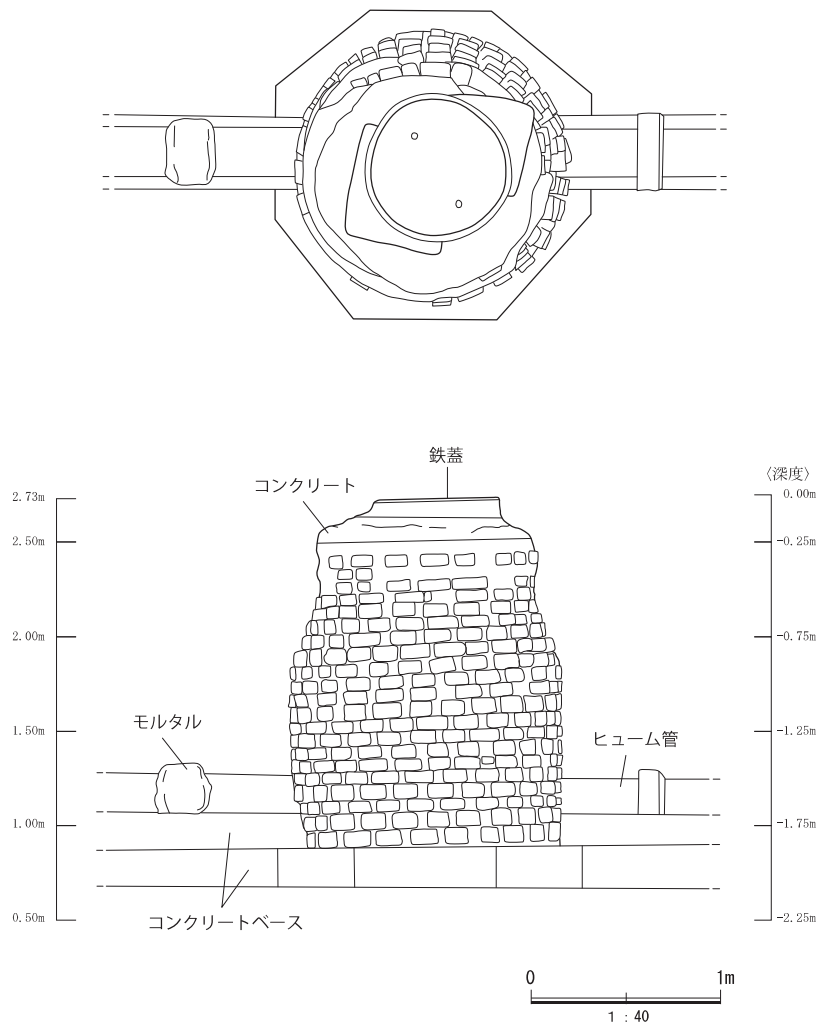
16 図 試掘坑③全体図 (1) 上層



17 図 試掘坑③全体図 (2) 下層



18 図 試掘坑③基本土層図



19 図 試掘坑③下水遺構（煉瓦組）3 詳細図

試掘坑④

調査面積 494.32 m² (1 工程：494.32 m²、2 工程：188.07 m²、3 工程：90.38 m²、4 工程：35.34 m²)

検出遺構 石積 1 基

出土遺物 点数 90 点、重量 5.5 kg (磁器 49 点、陶器 25 点、炆器 3 点、土器 6 点、瓦 2 点、ガラス 3 点、煉瓦 1 点、タイル 1 点)

調査目的 試掘坑④を設定した J 21-1~6・K21-1・K21-4 グリッドは、築地川河口付近 (2・3 図参照) に想定される区域であり、市場敷地拡張前の隅田川護岸の位置を特定することを目的として試掘調査を行った。

調査所見 試掘坑④では北区 (71.78 m²)、と南区 (81.47 m²) の二つの調査区を設け、両区の周辺 (341.07 m²) の状況を調査するため北区の北側に 1 本、両区の上に 6 本の計 7 本のトレンチ (49.34 m²) を設定した。

南区は、旧築地市場建物跡の地中梁に囲われた部分に位置し、地中梁によって 3 ブロックに分かれる形となった。ここでは四方がコンクリートの壁で囲われているため、段掘りでの掘削とせず、最大で TP=0.81 cm まで掘り下げた。この深さは地上から約 2m の深度であるが、汚染土壌が確認された区画のため、地下水位に至らない範囲に掘削を留めたものである。南区の地中梁で隔たれた三つのブロックのうち西側の 2 ブロックで石積が良好な形で検出された。石積は、調査坑や地中梁と平行する北東-南西方向に約 12m にわたって確認できた。中間部と両端部が地中梁によって損なわれているものの、囲われた内部については保存状況が良好なため、地中梁の下にも石積の下部が遺存している可能性は高いと考えられる。また連続する東側のブロックでは、複数の埋設管のため石積が失われていたが、ピンボールによる触診では検出面より下位の部分に石積が遺存しているようであった。

また、石積の裏込部分は、近世の盛土と思われる土層が TP=1.25m ほどで確認された。このことから、石積は近世の所産とみられ遺構の位置と方向から 2021 年に東京都市計画道路環状 2 号線 (築地) 整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査で報告された中央区築地市場跡遺跡 002 号遺構の延長部分に当たる可能性が高く、隅田川護岸の石積と想定される。

出土遺物は、上層では 18 世紀前葉~19 世紀中葉頃までの中国磁器の小皿、墨書のある徳利の中瓶、志戸呂焼の徳利、肥前磁器の八角鉢等がある。また、近代の遺物としては瀬戸系のカンテラ蓋がある。そして、石積の裏込部分では、18 世紀前葉頃のやや上質な陶磁器類の中国磁器、碗、瓶等がみられ、陶器では、輪髹皿、志戸呂の大瓶、徳利、半球碗が出土した。また、石積の前面の埋土から出土した遺物には、少数ながら近世の土瓶、近代~現代の色付き板ガラスの針金の入ったものがみられた。

追加トレンチは 7 本設定したが、それぞれ上層の地表から 30~70 cm は舗装と路盤で、その下の 50~140 cm は、碎石、コンガラ、ゴミ等を含む管の埋設に伴う攪乱土が占める。その下の 30~70 cm は黄色や暗橙色の砂層、そしてこれらの底の TP=0.20~0.52m ほどで近世の盛土と思われる黒色土が確認された。

遺物は、石積 2 の裏側付近に設定したトレンチ 7 の下層から 18 世紀代のやや上質な磁器の中瓶が出土した。

北区には多くの埋設管が確認され、そのため管の撤去作業に多くの手間が生じた。段掘り調査の 1 段目は TP=1.90m まで掘削し、コンクリートガラや煉瓦片等が混入する土層が確認された。この層からは、「SHINAGAWA」の刻印のみられる品川白煉株式会社 (現在の品川リフラクトリーズ株式会社) 製の耐火煉瓦 1 点が出土した。

段掘り調査の 2 段目は TP=0.8m までを掘削し、平走する 3 本の鉄管と 2 本のヒューム管が検出された。2 段目からはさらに、中ほどから 1 本の鉄管、下層附近からは 5 本のヒューム管が検出された。

段掘り調査の 3 段目は TP=-0.2m までを掘削した。中央の底を横切るように 1 本のヒューム管を

検出したが、このほかに遺構は確認出来なかった。また、当該層の遺物は少量ではあるが、18世紀前葉～後葉頃の肥前系染付の磁器碗・皿類、瀬戸系陶器片が出土した。

(1)「石積2」(K21-1・K21-4 グリッド)

本遺構は、K21-1・K21-4 グリッドの南東部で延長 11.2mを確認した。

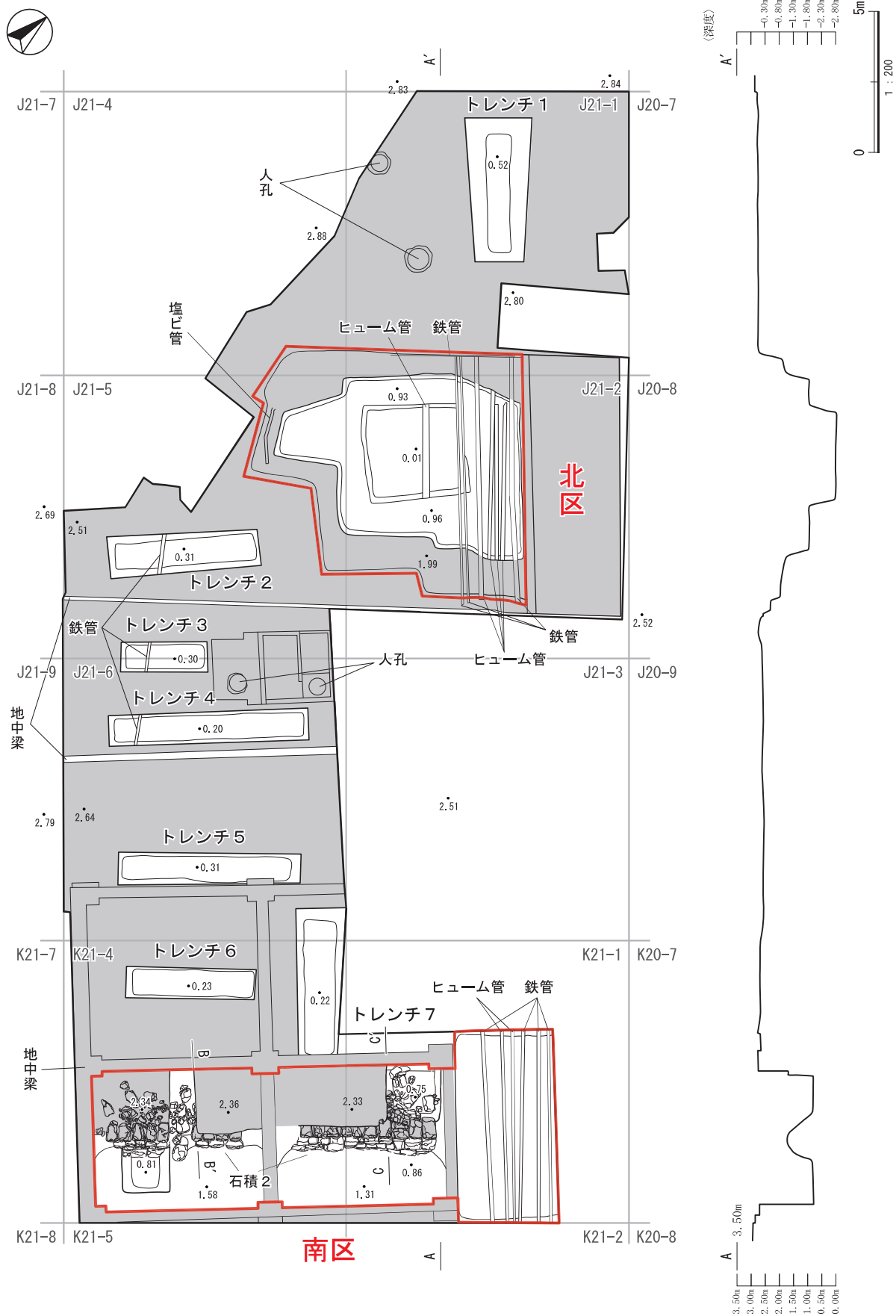
このうち地中梁に分断された西部(K21-4 グリッド西側)では、幅 480 cm、高さ 140 cmにわたって遺構を検出した。残っていた石列の天端の石垣石は9体だが、中間部で2体分が崩落しており、本来この部分には11体並んでいたとみられる。

石積の前面を天端から約 140 cm (TP=約 0.8m) の深さまで掘り下げ、4段の石積を確認した。石積は横目地が通る布積で構成されており、2段目と3段目は、場所により1体の石が2体分の高さのものもある。最上段の石材には、長方形切り石を用いているものがあり、また、2段目以下とツラを揃えず 15 cmほど引いた位置に据えていることから、本来の天端の石垣石の可能性はある。しかし、2段目以下とツラがずれた状況は、この部分が近代以降に積み直された可能性も考えられる。

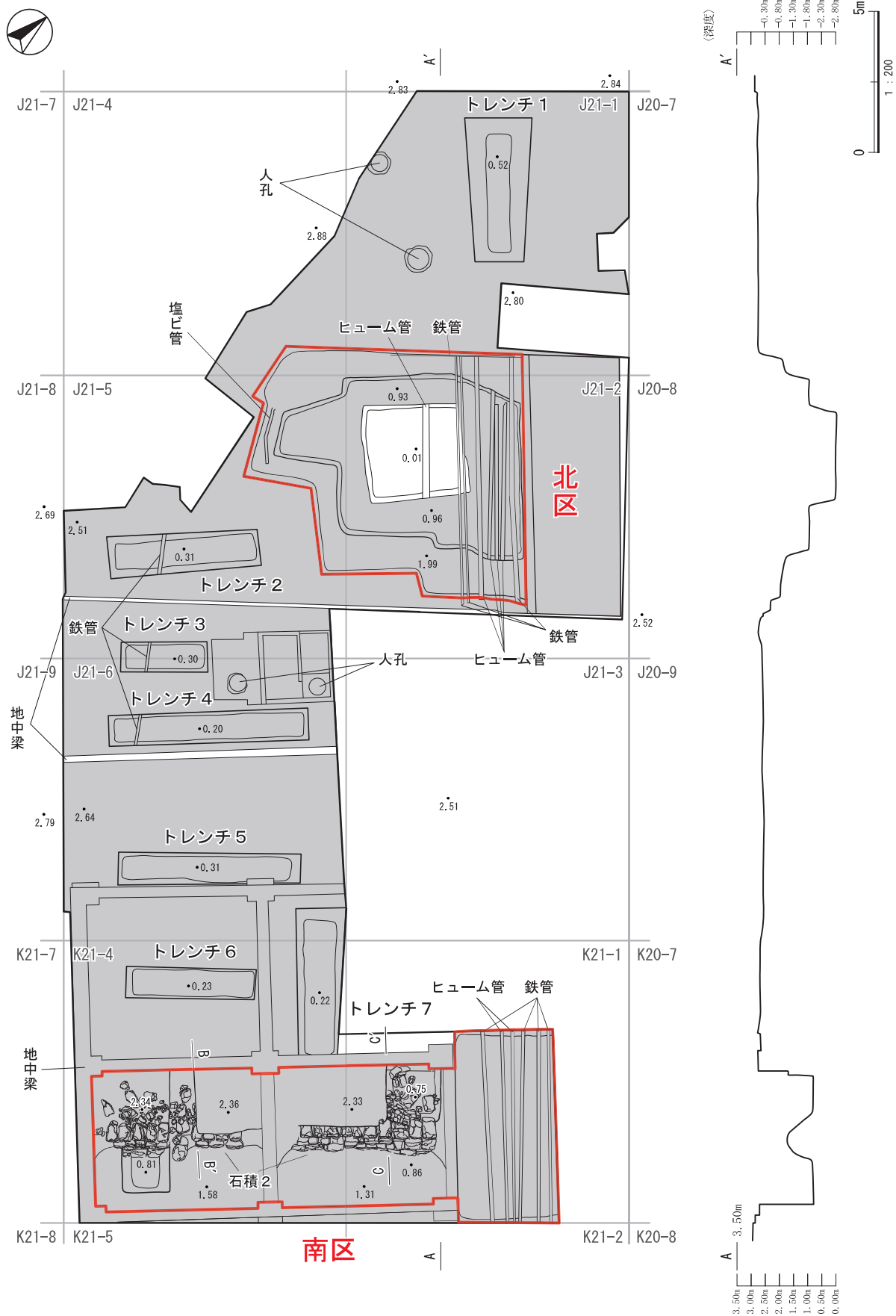
石積2の東部(K21-1 西側と K21-4 グリッド東側にまたがる部分)は、幅 520 cm、高さ 145 cmにわたって遺構を検出した。残っていた石列は天端が10体で、天端から前面を約 140 cm (TP=約 0.8 m) の深さまで掘り下げ、3段の石積が確認された。石積は布積で構成されており、右端の2段目と3段目の石材に面が五角形状に加工されたものがあり、切込接を意識した積み方となっている。西部と同様に天端の石は、2段目以下と面を揃えず 15 cmほど引いた位置に据えている。石材は凝灰岩系で表面に2～5 cm大の円形の窪みが観察出来る。

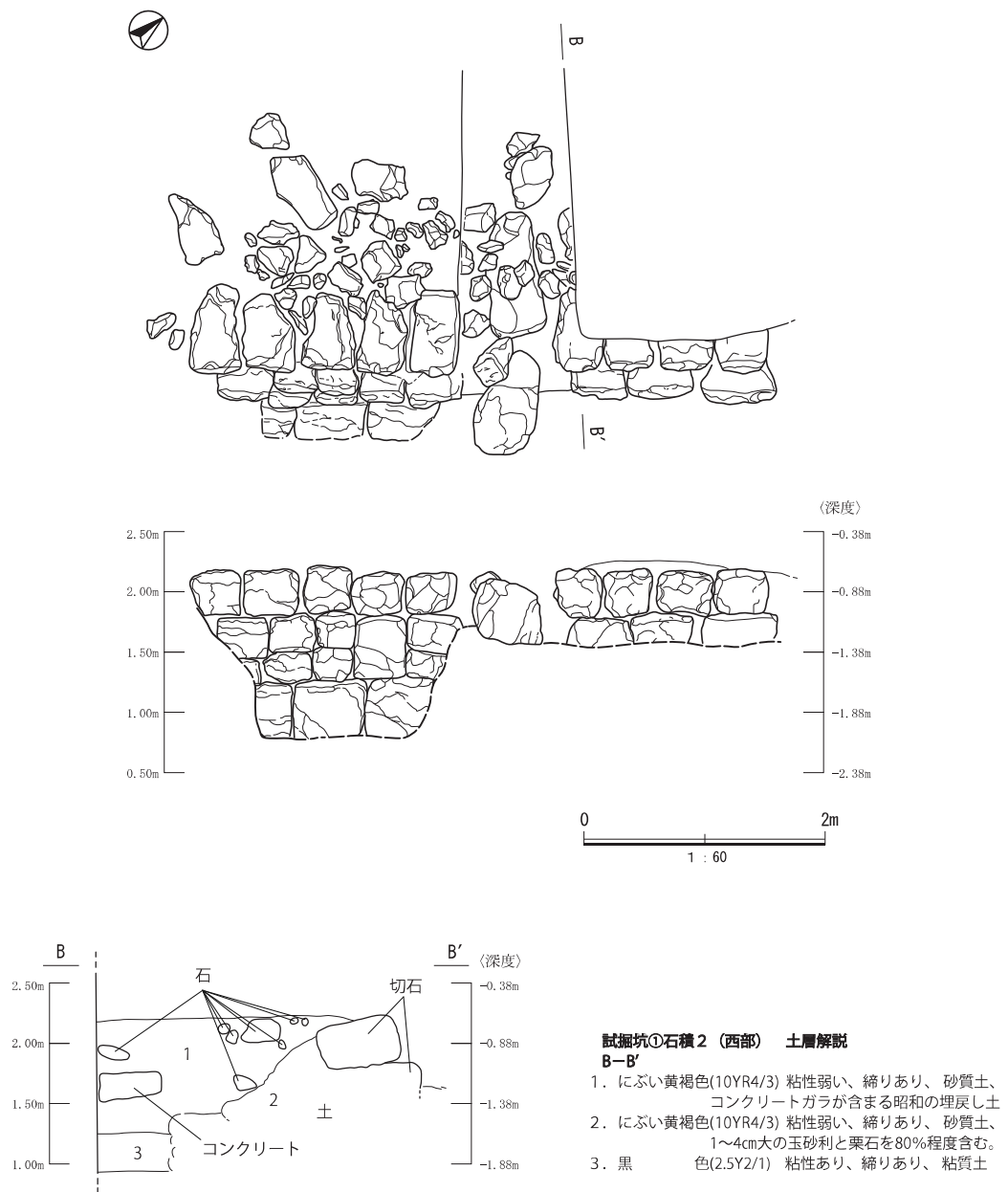
参考・引用文献

- ・海軍兵学校 1919 『海軍兵学校沿革』第1巻(国立国会図書館デジタルコレクション)
- ・貝塚爽平 1979 『東京の自然史〈増補第2版〉』紀伊國屋書店
- ・渋谷葉了 2014 「木挽町築地の土地利用―武家地から海軍用地へ―」『築地五丁目遺跡―東京国税局(仮称)整備等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第291集
- ・水路部 1935 『水路部沿革史―自明治19年至大正15年(昭和元年)―』(国立国会図書館デジタルコレクション)
- ・角田清美 2014 「東京都心・「日比谷の入江」の埋没地形と有楽町層」『駒沢地理』第50号
- ・東京都埋蔵文化財センター 2014 『築地五丁目遺跡―東京国税局(仮称)整備等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第291集
- ・東京都埋蔵文化財センター 2014 『築地五丁目遺跡―東京国税局(仮称)整備等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査その2―』東京都埋蔵文化財センター調査報告第299集
- ・東京都埋蔵文化財センター 2021 『築地市場跡遺跡―東京都市計画道路環状2号線(築地)整備等事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』東京都埋蔵文化財センター調査報告第362集
- ・仲光克顕 2022 「初期江戸、城下町の埋立地形」『月刊考古学ジャーナル』No.772

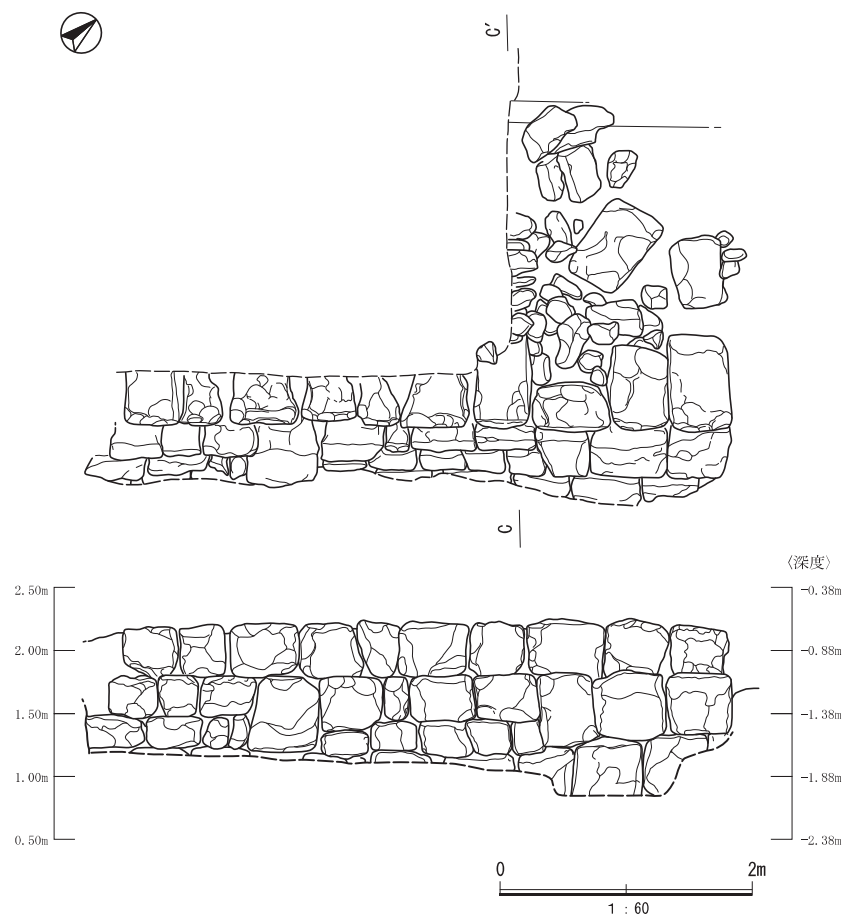


20 図 試掘坑④全体図 (1) 上層



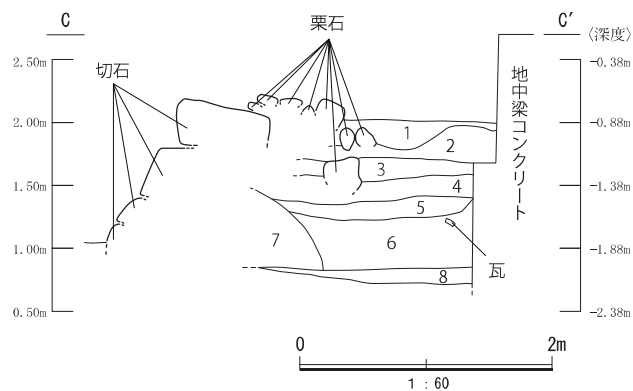


22 図 試掘坑④石積2（西部）詳細図



試掘坑④石積2（東部） 土層解説
C-C'

1. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性弱い、締りあり、砂質土、掘削した土を埋戻した層。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性弱い、締りあり、砂質土、全体に1~4cm大の玉砂利を70%程度含む。1.と同様に埋戻し土
3. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性弱い、締りあり、砂質土、裏込めの栗石付近は1~4cm大の玉砂利を80%程度・コンクリート壁付近では5%程度含む。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3) 粘性弱い、締りあり、砂質土
5. 灰オリーブ色(7.5Y4/2) 粘性あり、締りあり、砂質土、全体に1~2cm大の玉砂利を60%程度含む。
6. 暗 灰 黄 色(2.5Y4/2) 粘性あり、締りあり、砂質土、全体に1~3cm大の玉砂利を2%程度含む。
7. 黒 色(2.5Y2/1) 粘性あり、締りあり、粘質土
8. 黒 色(2.5Y2/1) 粘性弱い、締り弱い、粘質土、全体に砕けた貝殻を多量に含む。



23 図 試掘坑④石積2（東部）詳細図

表2 試掘坑②出土遺物集計表

		磁器	青磁	陶器	炻器	土器	瓦	土製品	金属製品	木製品	ガラス	自然遺物	レンガ	タイル	ガイン	備考	合計	
試掘坑②	上層	点数	2	4	2	1	7										16	
		重量	190	104	824	18	839										1,975	
	上層	点数	12	12	1							3			3	1		32
		重量	154	222	39							52			120	27		614
	上層	点数																0
		重量																0
	中層	点数	7					1				1						9
		重量	304					188				100						592
	中層	点数	41															41
		重量	593															593
	中層	点数			16		4											20
		重量			759		94											853
	中層	点数	6		5							1						12
		重量	103		55							22						180
			点数															0
			重量															0
			点数															0
			重量															0
			点数															0
			重量															0
			点数															0
			重量															0
			点数															0
			重量															0
		点数															0	
		重量															0	
		点数															0	
		重量															0	
		点数															0	
		重量															0	
		点数															0	
		重量															0	
		点数															0	
		重量															0	
		点数															0	
		重量															0	
		点数															0	
		重量															0	
合計	点数	68	0	37	3	5	8	0	0	0	5	0	0	3	1	0	130	
	重量	1,344	0	1,140	863	112	1,027	0	0	0	174	0	0	120	27	0	4,807	

表3 試掘坑③出土遺物集計表

		磁器	青磁	陶器	炻器	土器	瓦	土製品	金属製品	木製品	ガラス	自然遺物	レンガ	タイル	ガイン	備考	合計
試掘坑③	上層	点数 重量	13 205	3 52							2 33						18 290
	上層	点数 重量									25 296						25 296
	中層	点数 重量		15 754	1 7			1 5									17 766
	中層	点数 重量	27 274														27 274
	下層	点数 重量	2 86														2 86
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
合計		点数 重量	42 565	0 806	1 7	0 0	0 0	1 5	0 0	0 0	27 329	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	89 1,712

表4 試掘坑④出土遺物集計表

		磁器	青磁	陶器	炻器	土器	瓦	土製品	金属製品	木製品	ガラス	自然遺物	レンガ	タイル	ガイン	備考	合計
		点数 重量	18 122	1 6	2 90	2 43	2 43	1 438					1 3,150				24 3,411
試掘坑③	上層	点数 重量	10 109	14 295													24 404
	中層	点数 重量	4 34	3 130		2 43	1 438										10 645
	中層	点数 重量	10 86	4 93	1 60	1 14											16 253
	下層	点数 重量	6 123	2 35		1 4											9 162
	下層	点数 重量		1 5		1 437	3 42							1 6			6 490
	下層	点数 重量	1 157														1 157
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
		点数 重量															0 0
合計		点数 重量	49 631	0 564	3 150	6 104	2 875	0 0	0 0	0 0	3 42	0 0	1 3,150	1 6	0 0	0 0	90 5,522

出土総点数	195	0	98	7	11	10	2	0	0	0	48	1	1	5	4	0	382
出土総重量(g)	2,885	0	3,047	1,020	216	1,902	10	0	0	0	806	9	3,150	140	130	0	13,315



遺構完掘状況(直上より)(画面上が南東)



石積 1 検出状況(北東より)



石積 1 断面(北東より)



石積 1 検出状況(直上より)



南東部土層断面(北西より)



中央部土層断面(北西より)



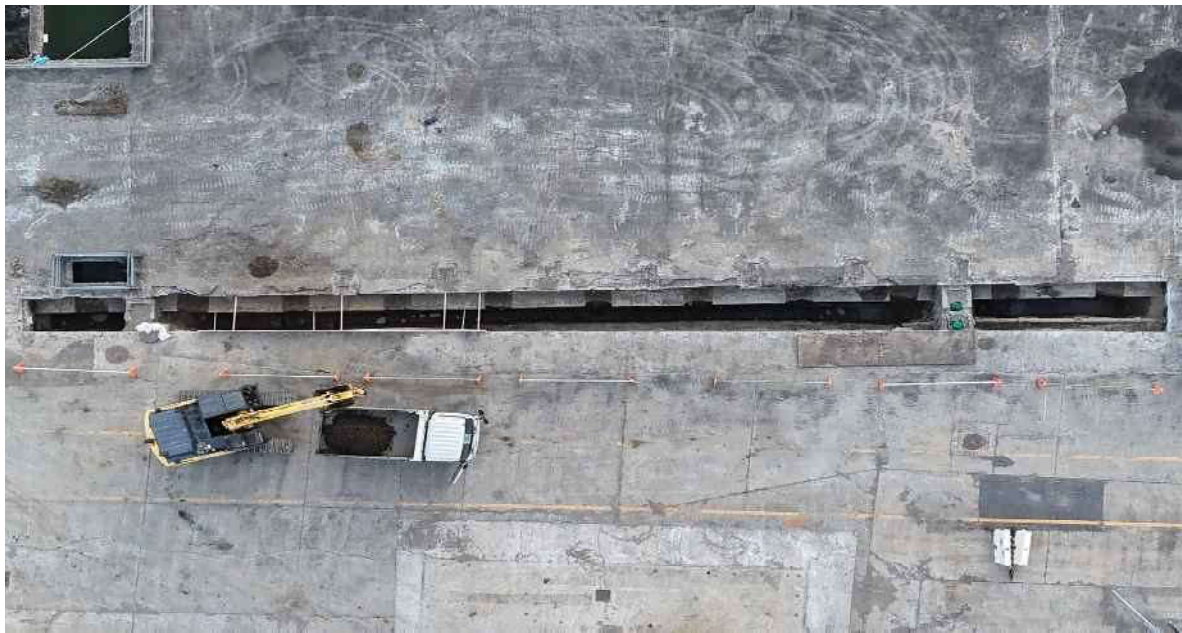
南東部土層断面(北西より)



南部土層断面(北西より)



下水遺構(煉瓦組) 2 検出状況(北より)



遺構完掘状況(直上より)(画面上が南西)



杭列 1 検出状況1(直上より)



杭列 1 検出状況2(南東より)



敷石検出状況(北西より)



杭列 1 検出状況3(北西より)



杭列 1 検出状況4(北東より)



杭列 1 検出状況5(北東より)



杭列 1 検出状況6(北西より)



遺構完掘状況(直上より)(画面上が南西)



南東部土層断面(北西より)



南西部土層断面(北東より)



南西部完掘状況(北東より)



南西部土層断面 1(北東より)



南西部土層断面 2(北東より)



下水遺構(煉瓦組)3検出状況(北西より)



遺構完掘状況(直上より)(画面上が南西)



石積2西部(直上より)



石積2東部(直上より)



石積2東部とさらに東側(直上より)



石積2東部石垣石崩落部(直上より)



石積2東部断面(東より)



石積2西部(南東より)

試掘坑 ①

PL 5



上層



上層(西部)



上層(西部)



中層



中層



中層(西部)



下層



下層

試掘坑②



上層



中層



中層



中層



中層



中層



中層



中層



中層



中層(南端)



中層(南端)



中層(北端)



中層(北端)



中層(北端)



中層(北端)



中層(北端)

試掘坑③



上層



上層



上層



上層



上層



中層



中層



中層



中層



中層



中層



中層



中層



下層

試掘坑④



石積裏



石積裏



石積裏



石積裏



西側石積裏



石積裏



石積裏



青灰土層



青灰土層



上層 (砂質土)



追加トレンチ7下層



東側拡張部石積裏側



攪乱



攪乱



攪乱

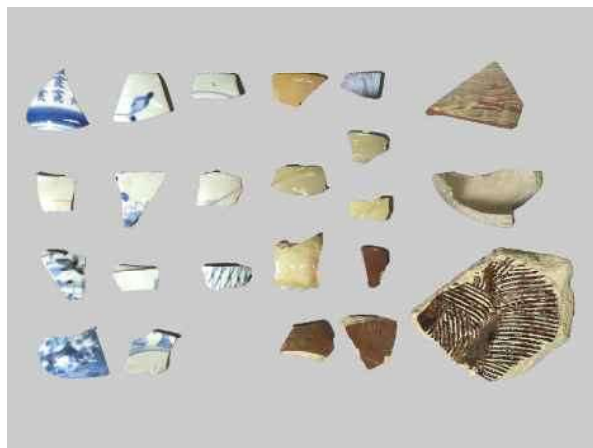
試掘坑①



上層



中層



下層

試掘坑②



上層

PL 7



上層(西部)



中層(西部)



攪乱部



上層



中層



中層



中層(南端)

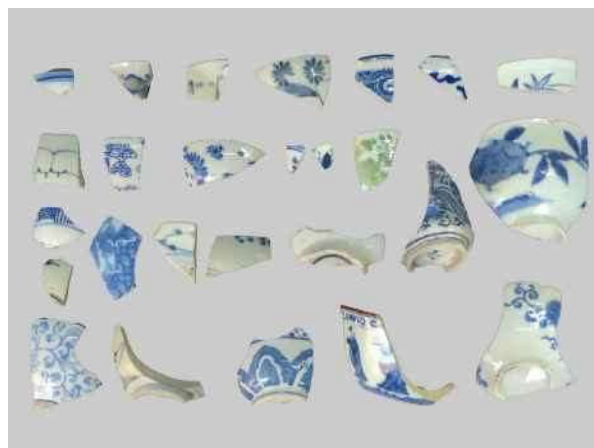


中層(北端)

試掘坑③



上層



中層



中層



中層



下層

試掘坑④



布基礎内側 1 段目掘削



石積裏



西側石積裏



青灰土層



追加トレンチ 7 下層



石積外